

会 議 録

| | |
|------------------------|--|
| 会 議 の 名 称 | 小金井市新庁舎・(仮称) 福祉会館建設 実施設計 第 2 回 こがねいミーティング |
| 事 務 局 | 佐藤総合計画株式会社 渡辺 猛 河田 健 猪原 昭宏 井上 遼 前島 賢 庁舎建設等担当課長 企画政策課企画政策係主査 渡邊 健介 企画政策課企画政策係主任 萩野 裕人 福祉会館等担当課長 林 文男 地域福祉課地域福祉係主任 斉藤 祐太 |
| 開 催 日 時 | 令和2年10月19日午後7時30分から午後9時00分まで |
| 開 催 場 所 | 萌え木ホールA・B会議室（商工会館3階） |
| 出 席 者 | 卯月 盛夫 委員長 齋藤 啓子 委員 金子 和夫 委員 上原 和 委員 坂野 勝一 委員 諏訪間 千晃 委員 中村 彰宏 委員 森田 眞希 委員 石塚 勝敏 委員 矢野 典嗣 委員 高橋 茂夫 委員 |
| 傍 聴 の 可 否 | 可 |
| 傍 聴 者 数 | 3人 |
| 会 議 次 第 | 1 委員長挨拶 2 第1回 実施設計 こがねいミーティングの方向性の検討状況報告 3 サイン計画のついでへの検討 4 その他 |
| 会 議 結 果 | 別紙のとおり |
| 発言内容・発言者名 (主な発言要旨等) | 別紙のとおり |
| 提 出 資 料 | 次第 資料1：新庁舎・(仮称) 新福祉会館建設 実施設計 第1回 こがねいミーティングの方向性 (案) 資料2：実施設計 第2回こがねいミーティング |
| そ の 他 | － |

次第1 開会挨拶

《委員長 開会挨拶》

次第2 第1回“こがねいミーティング”の方向性(案)検討状況報告

(1) 実施設計第1回こがねいミーティングの方向性について

【委員長】 前回のこがねいミーティングをふまえた資料について、現在の検討状況を伺いたい。

【事務局】 「広場周辺等の子ども、高齢者等の安全性の確保」については、敷地内の樹木から子どもが急に飛び出してきたりも安全対策が図られるよう「敷地内の樹木等の死角に配慮すること」、歩行者等の安全性が図られるよう、自動車だけでなく自転車との歩車分離を区分することとして、「歩車分離を明確に区分できるよう、安全性に十分配慮した計画とすること」、高齢者、視覚障がいのある方が躓くことなどが無いよう、「高齢者、視覚障がい者に配慮した舗装とすること」として整理した。

人々が集える広場の工夫として、パブリックコメントなどでも多く寄せられた広場を広くといった意見を踏まえて、「北西部の広場は幼児も遊べるような設えとなる工夫をすること」また、福社会館の屋上については、人々が集うことと隣地等周辺環境に配慮することとして、「福社会館の屋上は天然芝とデッキの設えとし、周辺環境にも十分配慮する」ことと整理した。

マルチスペース等の展示方法については、用途、使い方に応じた展示スペースの工夫として、小さな常設展示スペースや仮設展示スペース等に関するご意見を踏まえ、「常時、展示ができるスペース、イベント的に使用するスペースなど用途に応じたスペースの分けを行う」こと、マルチスペース等は展示するスペースがあまり多くないため、「1階多目的室は展示スペースとしても使用できる設えとする」こととした。6階の議場周りは壁が多く、展示できるスペースがあることから、「6階の議場周りについても展示できるよう検討する」とした。

なお、議場周りを展示スペースとすることについては庁内での課題整理、市議会との調整等が必要となる点にご留意いただきたい。

続いて、マルチスペース、待合スペースは「行政機能としての効率性、安全性、デザイン性に配慮した計画とすること」として整理した。

マルチスペースと待合スペースについては、内装空間とのデザイン性にも配慮した方がよいという意見もいただいたが、一方で、待合スペースは、手続きの間、人が待つスペースになるので、待合スペースとしての機能、目的を果たせるよう設える必要がある。また、高齢者などがテーブルなどに寄りかかった場合などを想定し、安全性にも配慮した什器を選定した方がよいといった、ご意見もいただいた。

最後に、マルチスペースはポスター掲示スペース、サイネージ等市民へのお知らせ機能を備えること、開庁時の人が待つ空間を確保した上で、閉庁時の使い方を検討する旨を記載した。

【佐藤総合計画】 外構計画について説明させていただく。北西ひろばは面積を大きくして子どもが遊べるように考えている。じゃかごベンチのそばに計画していた桜は、北側歩道部に計画する形としている。歩道と車道の間にはボラードを設置して、道路と歩道を区切る計画としている。臨時駐車場を利用するときはボラードを動かして歩道と車道を分ける

ことを考えている。

次に、前回意見があった1階平面図の展示利用の想定として、1階マルチスペース及び多目的室に展示パネルを配置した際のレイアウト例を示している。多目的室の奥側はバトンやスクリーンを配置できる計画とした。展示パネルは900mmのモジュールで配置している。6階議場まわりについては、回遊できるスペースを確保し、壁面にピクチャーレールやライティングダクト・スポットライトを配置し、小さな展示ができるように計画している。

【委員長】 第1回こがねいミーティングの方向性（案）についてご意見を伺いたい。

【委員】 スクリーンとバトンの使用はどのように行うのか。また、バトンはどの程度の大きさか。

【佐藤総合計画】 下から引っ張り出す設えとしている。バトンの長さは4m程度を計画している。

【委員】 マルチスペースの展示パネルの幅は車いす利用者も通り抜けられるような、使いやすい配置となっているか。

【佐藤総合計画】 提示した資料では、3m間隔で展示パネルを配置しており、車いす利用者が使いやすい寸法でレイアウトしたものである。

【委員長】 パネルは建物内の倉庫に収められるものとなっているか。

【佐藤総合計画】 パネルの仕様、数量等は、今後、什器計画の中で整理する。

【委員】 内部のじゃかごはどのような素材か。地震時は問題ないか。

【佐藤総合計画】 地震に対しては、じゃかご内部の材料をしっかりと留めつける等、落下しないよう配慮したものを考えているが、メンテナンスのしやすさ等も考慮して、市と協議したい。

【委員長】 内部空間のデザイン性も重要だが、安全性や高さにも配慮して、市としっかり協議して、検討していただきたい。

次第3 サイン計画についての検討

【佐藤総合計画】 サインについての大きな考え方を説明させていただく。公共施設のサインとして、来庁者がスムーズに施設を利用できるように5つのことに留意している。

1つ目、文字について。表示言語は日本語・英語の二か国語表記を想定している。2つ目、ピクトグラム（絵文字）は、直観的に情報を理解できるようピクトグラムを活用したサインを想定している。3つ目、色については、できるだけ言語化できる色を使用し、見にくい組み合わせは避ける計画としている。4つ目、高さについては、高齢者や車いす利用者の方に配慮してサイン表示の上下の中心を1500mmの位置とし、サインとして機能しにくい500mm以下は基本的に配置しない想定としている。5つ目、種類について、公共施設に設置するサインは、「A. 総合案内サイン」、「B. 誘導サイン」、「C. 定点

サイン」、「D. その他のサイン」の4つに分類し、これらのサインを的確な位置に配置し目的地へ誘導する想定としている。

次に外構のサインについて説明させていただく。敷地内では自転車から降りて、押して歩く計画としており、自転車から降りて押して歩くように促す注意喚起サインを通路に設置する想定である。また、樹木や植栽のサインの他、環境啓発の掲示板、敷地案内サイン・掲示板・駐輪場サイン等を設置する想定である。

次に建物内のサインでは、総合案内サインから誘導サインを介して定点サインにより目的地を示し、その他のサインとして、自立サインボードや置き型サインを設置してはどうかと考えている。窓口は課名のみではなく、各窓口にナンバーを配置することで、数字により誘導ができるように想定している。

【委員長】 サイン計画について、ご意見を伺いたい。

【委員】 視覚障がい者に配慮して音声案内は想定しているか。

【佐藤総合計画】 音声案内は設置位置が重要であり、一般的には人通りが多いところに設置することが多い。音声案内の設置の可否も含めた検討が必要となる。

【委員】 トイレには音声案内が必要ではないか。

【委員】 所沢市子どもと福祉の未来館では、様々な障害の方に対応できるよう案内が充実していた。また、手すりに部屋の番号がわかるよう点字を設置している事例もある。

【佐藤総合計画】 階段には手すりを設置する計画である。福祉会館は階段以外の通路でも手すりが設置可能な部分には設置したいと考えている。

【委員】 文字については、中国語、韓国語などの言語表記があってもよいのではないか。小金井市の現状を見ながら検討してほしい。

【委員】 文字の表記方法は市の考え方となるため、今までの市民の声や現状を把握しながら検討してほしい。「やさしい日本語」など）総合案内でどこまで誘導を行うかでサインの内容も影響してくる。表示のみに偏るのではなく、人的誘導による対応も可能であるし、行っていただきたい。外国語表記については、各国のリーフレットを作る事例もあるので、市の考え方を整理して検討する必要がある。

【委員】 手すりは二段手すりがあるとよい。サインの高さについては、車いすの目線は1100mmから12000mmが見やすいのではないか。室内のガラス面には衝突防止シートが必要だと思うが、事例写真のように手形が上下にあるものでもよいと思う。また、福祉会館は多目的室等も多いため、扉は色分けし、鍵と色が対応しているなど、わかりやすさに配慮してほしい。階段を色分けしていると避難誘導しやすく防災上も有効ではないか。動線誘導のサインが床にあるのもよい。

【佐藤総合計画】 福祉会館については、二段手すりとできるよう検討したい。

【委員】 窓口サインの色は分かりやすく言語化できる色がよい。サインに多摩産材などを活用しても良いと思う。

【委員】 小金井市を表現する手段として“フォント”も大切にし、難しいとは思いますが、小金井の独自性を表現できるとよい。東・南の路地空間がよくなるように工夫してほしい。樹木に対してサインを入れてほしい。

【委員】 会館内の各部屋の部屋番号や部屋名称が通路上で遠目にもわかりやすいサインとなるよう工夫してほしい。また、展示内容がわかるよう会館外に案内板があるとよい。自転車のピクトグラム等は誤解されないよう工夫してほしい。

【委員】 サインについては、行政窓口の名称変更に対応できる設えがあるとよい。数字など誰でもわかる記号を用いることはよいと思う。色の区別は5色が限度と言われており、例えば、手続きごとにテーマカラーを決めるといったことも一つの方法である。非常時のサインとして、フラッシュライトなど聴覚障がい者の方にも配慮したものがほしい。

【委員長】 避難時・非常時のサインについてはどのように考えているか。

【佐藤総合計画】 フラッシュ型のサインについては、設置位置を含め検討していく。

【委員】 発災時のサインも普段から目に入るようにサイン計画において工夫してほしい。この建物には発災時には、人が集まることが考えられるため、平時と発災時のいずれの内容もサインに含まれているとよい。

【佐藤総合計画】 発災時は、どのように避難するかがわかるようにサインを計画している。発災時の避難計画や施設の利活用を市と共有し、サイン計画に反映していきたいと考えている。

【委員】 発災時において、庁舎は災害対策本部として、福祉会館は医療救護活動拠点やボランティアセンター本部として機能する建物である。市民の方が避難する避難所ではないため、平時と発災時の室名を併記することまでは必要ないと思う。

【委員】 聴覚障がい者の方に配慮して、デジタルサイネージを活用して文字放送を行うとよいと思う。

【委員】 災害時に転用するスペースや機能は検討しているか。

【事務局】 災害時の転用機能等については、基本設計段階において整理してきている。

【委員】 サイン計画はハンディキャップのある方が分かりやすいように配慮してほしい。例えば、福祉と庁舎でサインの色を分けるなどがあると思う。

【佐藤総合計画】 入口部に総合案内サインや誘導サインを配置することで、わかりやすさに配慮している。ハンディキャップのある方に対しても分かりやすくなるサイン計画を考えたい。

- 【委員長】 わかりやすさという観点からいうと館名表示の場所も重要となってくるので、検討してほしい。
- 【委員】 サイン計画で発災時の機能も併記することで市としてのスタンスを表現できるとよいと思う。
- 【委員】 災害発生時には十分な電源の確保が重要になるが、会館が市民の避難場所だと勘違いされないように建物の役割を市民に事前に適切に伝えてほしい。
- 【事務局】 非常用発電について、本施設は災害対策本部、災害時の医療の拠点、そしてボランティアセンターを運用していくものとして考えており、7日間の燃料を想定している。
- 【委員】 サイン色は、背景と同化して分かりにくくならないように配慮してほしい。
- 【委員】 デジタルサイネージはタッチパネル、あるいは非接触のインタラクティブ画面で案内誘導できるようなものを導入すると使いやすくなるのではないかと思う。
- 【事務局】 どのようなデジタルサイネージを導入するかについて、現在、庁内で検討しているところである。
- 【委員長】 昨今は災害時や非常時における対応の重要性が増しているので、サイン計画においても反映していただきたい。また、既成のサインに縛られるのではなく、フォントやピクトグラムで小金井らしさを表現できたらよいのではないか、という意見があった。多くの人にとってわかりやすいサイン計画となるよう、本日の意見を参考にさせていただきながら、引き続き、検討して欲しいと思う。
- 昨年度から全6回、こがねいミーティングを開催してきたが、毎回、非常に熱心に御議論いただいた。市と設計者には、市民の皆さんに長く使っていただける施設となるよう頑張っていたいただきたい。

以上